



# きら 煌めけ真壁っ子

学校便り 第 17 号  
令和5年2月6日発行  
学校長 津嘉山 博好

## 校内持久走大会トリム & 新記録表彰

教育の日に行われた校内持久走大会で、子供たち一人一人の記録と大会前に自己申告した目標タイムを全て点検し、タイム差の小さかった子たちへトリム賞表彰を行いました。合わせて、これまでの学年毎の最高タイムと比較し、記録を更新した子たちへの新記録賞表彰も行いました。今年も自己記録更新を目指した結果、素晴らしい記録が生まれました。



## 2月の行事予定

- 1日(水)学校安全日  
委員会活動
- 3日(金)新中1オリエンテーション(三和中)
- 6日(月)読み聞かせ
- 7日(火)新1年生入学説明会
- 8日(水)お話朝会  
委員会引き継ぎ式
- 14日(火)県学力到達度調査  
(5・6年生)
- 16・17日(木・金)宿泊学習  
(5年生)
- 22日(水)隣学年朝会  
新1年生お招き会

## 味覚の授業を行いました (6年生)

1月25日(水)に那覇市天久にある洋食店 KYOKAWA さんの川平恭平シェフをお招きして味覚の授業を行いました。写真(真ん中)にもあるように6つの味を試しました。子供たちと味覚を話題に話をしてみるのもよいのではないのでしょうか。



## 普段の授業から

学習に取り組む子供たちの様子です。



1・2年<図工>



6年<音楽>



5年<英語>

3・4年<図工・写生大会>



<ハッピー1組・豆まき>



<ハッピー2組・3組・タブレット学習>



.....

Education 2030 プロジェクトより「変革を起こす力のあるコンピテンシー※」について  
【新たな価値を創造する力】

2030年に備えるためには、創造的に考えたり、新しい製品やサービス、仕事、プロセスや方法論、新たな思考方法や生活様式、新たな起業、新たなセクター、新たなビジネスモデルや社会モデルを開発したりすることができるようにならなければならない。今後、イノベーションは、個々人の思考や作業のみならず、他者との協働と協働により既存の知識から新しい知識を生み出すことを通して、ますます引き起こされるようになる。このコンピテンシーを支える構成概念としては、適応力、創造力、好奇心や、新しいものに対して開かれた意識が含まれる。

【対立やジレンマを克服する力】

将来に備えていくためには、矛盾した考えや相容れない考えや論理、立場についても、それらの相互のつながりや関連性を考慮しながら、短期的な視点と長期的な視点の両方を踏まえて、より統合的な形で考え行動していくことを学習する必要がある。違う言い方をすれば、システム的な思考をするように学習しなければならないのである。

【責任ある行動を取る力】

このコンピテンシーの中核となるのが、自己調整の考え方であり、自己コントロール、自己効力感、責任感、問題解決、適応力を含むものである。発達神経科学の進展により、脳の可塑性の2回目の急激な増大は思春期に起きることが示されている。また、最も可塑性の高い脳の領野や仕組みは、自己調整の発達に関するものであることも示されている。思春期は、もはや、単に脆く傷つきやすい時期としてではなく、責任感を醸成する機会として捉えられるのである

※ OECD（経済協力開発機構）によるとコンピテンシーは知識や技能よりも1段階上位にあり、「特定の状況の中で、心理的・社会的な資源(技能や態度を含む)を引き出し、活用することにより複雑なニーズに応じる能力」と定義されている。